

Miyajima Natural Botanical Garden Newsletter



宮島自然植物実験所ニュースレター

Miyajima Natural Botanical Garden
Graduate School of Science
Hiroshima University
Mitsumaruko-yama 1156-2, Miyajima-cho
Hatsukaichi-shi, Hiroshima 739-0543, Japan

広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所
〒739-0543 広島県廿日市市宮島町三ツ丸子山 1156-2 外
Tel: 0829-44-2025; Fax: 0829-40-2001
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/miyajima/>
miyajima@hiroshima-u.ac.jp

Number 14 March 2009

第 14 号 2009(平成 21)年 3 月



満開のタイミンタチバナ *Myrsine seguinii* H.Lév. の雄花と雌花 (右下)。雄花では雄蕊の葯が、雌花では雌蕊が目立つ。
(いずれも廿日市市宮島, 雄花 2001 年 4 月 19 日, 雌花 2002 年 4 月 12 日, 向井撮影)

ヤブコウジ科ツルマンリョウ属の常緑低木または高木。宮島では 2-10 m の高さになる。花期は 3 月中旬から 5 月上旬。花は白色で、秋に果実が成熟する。雌雄異株で、雄花では花糸の短い葯が目立つ。千葉県以西の本州からインドシナ半島に分布。広島県では島嶼部や沿岸部の温暖な地域に分布。宮島では比較的良く目にする植物。

Evergreen shrubs or trees, up to 3-10 m in height. Native to southern Japan. White flowers in small clusters open in middle of March to beginning of May, followed later by round berries which turn purple-black in the fall. Common in Miyajima Is., Hiroshima Pref., SW Japan. (坪田博美・向井誠二)

小中一貫校宮島学園記念樹

木本弘士・竹下比登美（宮島学園 [宮島小中学校]）

宮島小学校と宮島中学校は長年小中連携を図ってきましたが、平成20年4月から、小・中学校9年間の効果的な指導体制を確立する小中一貫教育校として歩み始めました。また、文部科学省の研究開発学校としても、キャリア教育を基盤として、新学習指導要領を先取りしたカリキュラム開発の研究を推進しています。小・中学校の一体化を図り、これまでの小中連携以上の教育の成果を出したいと教職員一丸となって努力しているところです。

この機会に、小中学校の児童・生徒の環境教育も兼ねて、宮島学園創立記念樹を植えることを計画し、宮島の自然環境に配慮した樹種選定を行いました。宮島は世界遺産にも指定されており、地域そのものが教材といってもいいほど魅力的なところです。海に浮かぶ朱色の鳥居がクスノキであることはよく知られていることです。広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所で、次世代の厳島神社の鳥居を建てる際の部材とするために、宮島産のクスノキの種子から苗木を育てていることを伺い、苗木の譲渡を依頼しました。苗木の譲渡について快く承諾いただき、宮島学園の記念樹としてクスノキとヤマモガシの苗を寄贈いただきました。4月25日に開校式を行いました。その後、育苗に適した場所、土、植え方等についてご指導いただき、8月に校庭に記念樹として植樹しました。子供たちにとって良い記念になったはずです。

また、教材として、「宮島の植物と自然」と「宮島弥山原始林の植物」を全児童・生徒に寄贈いただきま



宮島学園開校式での植樹のようす
(廿日市市宮島町, 2008年4月25日)

した。宮島で育つ子どもたちに、宮島の自然を愛し、将来にわたって宮島の自然を守っていく気持ちを育むためにも、今後も宮島自然植物実験所のご協力を賜りたいと思います。

植物観察会の記録

埴田 宏（元 森林総合研究所）・

吉野由起夫（東和環境科学）・

豊原源太郎（元 広島大・院・理）

植物観察会が、広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所と広島大学大学院理学研究科生物科学専攻植物生物学講座植物分類・生態学研究室内ヒコビア会の共催で毎月1回行われている。以下は、2008年4月から8月までの記録である。

4月20日 広島市佐伯区 東郷山

2008年4月20日の第466回植物観察会は広島市佐伯区東郷山(977.4 m)で行なわれた。湯来町の「親とこどものふれあいの森公園」駐車場に9:00集合し参加者は47名、標高差が大きいので、ゆっくり歩くことが説明された。春たけなわの水田地帯に入るとカキドオシ、ホトケノザの色鮮やかな大群落とキランソウ、ムラサキサギゴケ等の紫系の花、ナズナ、タネツケバナの白花に、イヌナズナ、フウロケマン、セイヨウタンポポの黄色い花が目立つ。林道に入ると、溪畔のコウヤミズキの花がほぼ終わり、ナガバモミジイチゴが咲き出したところ、アオキの花はつぼみで、赤い果実が葉に隠れている。ヒノキ林床のヒガンマムシグサが見頃、林道沿いにはショウジョウバカマ、ナガバタチツボスミレ、ニシキゴロモの花、オオミズゴケ、オオシラガゴケが目立ち、岩上にはヤマグルマの若木も多い。ウリハダカエデは若葉と花。ヒノキの花が手の届く高さであり、雄花は花粉が飛んだ直後、雌花には珠孔液が見える。標高530 mからの山道はスギ林とアカマツ二次林の間の谷間、路傍にショウジョウバカマが多く、コセイタカスギゴケの群落も見られた。急坂の尾根を登り、送電線の巡視路を歩くとタムシバの花が終わり頃、シハイスミレとタチツボスミレが日なたと林床に住み分け、シキミとクロモジは満開、山頂近くではアセビがちょうど、コバノミツバツツジと



観察会集合後の行程説明（広島市佐伯区湯来町，
2008年4月20日，坪田撮影）



オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana*
(Maxim.) Makino の雌花（三次市君田町神之瀬峡，
2008年5月25日，坪田撮影）



満開のムラサキケマン *Corydalis incisa* (Thunb.) Pers.
(広島市佐伯区東郷山，2008年4月20日，坪田撮影)



ハナイカダ *Helwingia japonica* (Thunb.) F.Dietr. の雄花
(三次市君田町神之瀬峡，2008年5月25日，坪田撮影)

カナクギノキはつぼみ。山頂の北側斜面には立派なブナ林があり花芽が大きく膨らんでいる，花の量では豊作らしい。午後は往路を引き返し，山麓部で緩やかな尾根を横切る，ここには背の高いアカマツ林があり，コバノミツバツツジが良く似合う。イヌシデの花，ムラサキケマン，ミツバツチグリなど往路では見なかった花に出会う。（埴田 宏）

5月25日 三次市君田町 神之瀬峡

2008年5月25日の第467回植物観察会は広島県三次市君田町の神之瀬峡において行われた。天気は曇のち小雨。峡谷入口の駐車場に10時に集合。参加者は55名。出発前に豊原先生にこの地域の植生の説明をしていただく。川沿いにはタノウツギやヤブデマリの花が見られた。また橋の上からオニグルミの花を観察することができた。県内では高海拔地に見られるハルニレが海拔340mに見られるのに驚く。道沿いに

ジャニンジン，ミツバウツギ，ラショウモンカズラ，サワハコベ，ホウチャクソウなどの花を見る。クジャクシダの芽生えが雨に濡れて美しい。ゴマキの花があり，葉を揉んでその匂いをかいだ。キャンプ場で昼食。午後，川原のミミナグサとオランダミミナグサについて，豊原先生から説明を受けた。ここでは対岸にウラジロガシの巨樹が見られた。午後も時間の許すかぎり上流に向かう。キシツツジ（花），カワラハンノキ，ミズナラ，イヌブナ，ヒメザゼンソウ（花），ホツツジ，ヤマグルマ，ヨコグラノキなどを確認する。茗荷谷から引き返した。（吉野由起夫）

6月22日 広島市安佐南区 太田川

2008年6月22日の第468回植物観察会は広島県安佐南区の太田川左岸において小雨 - 曇行の中行われた。アストラムラインの「西原駅」に10時に集合。朝まで雨が降っていたが30名の参加があった。西原



植物観察中（三次市君田町神之瀬峡，2008年5月25日，中原・坪田撮影）



ハンゲショウ *Saururus chinensis* (Lour.) Baill.
(広島市安佐南区，2008年6月22日，坪田撮影)



アカメガシワ *Mallotus japonicus* (L.f.) Müll.Arg. の雌花
(広島市安佐南区，2008年6月22日，坪田撮影)

駅から太田川に市街地を歩いているとハンゲショウがあった。本種は低湿地に生育する草本で，生育環境が激減していることから，広島県の準絶滅危惧種になっている。途中の古川は旧太田川の本流で，ここでは低水敷にもヤナギ類が多数生育している。この付近は太田川放水路ができるまでは，水害の多かった地域で，古い人家は1 mほど高い土台上に建てられている。草刈が行われている高水敷にはネジバナの花が目立つ。草刈が不十分な場所ではシナダレスズメガヤが多い。この植物は道路法面の緑化のために導入されたアメリカ原産の植物で，河川中流部では砂の堆積がおこり，川原の植物の生育環境を破壊するとされている。河川敷にはイヌゴマ，カワラサイコなどの在来種も見られるが，セイヨウヒキヨモギ，ムシトリナデシコ，イヌコモチナデシコ，アレチハナガサ，ヤナギハナガ

サ，マツヨイグサの仲間などの外来植物が多い。低水敷にはヤナギ類が多数生育しているが，この時期に判るのはアカメヤナギくらいである。シナサワグルミも大きく生育し，花穂をつけていた。また，シダ植物のクサソテツが見られた。本種は広島県ではそれほど多くない種である。あとで調べたところ，近年，太田川流域の安佐北区で農家が本種の生産（コゴミ）を行っているとのこと。農協を通じて本種の苗が配られているようである。従って，今回確認されたクサソテツは洪水時に逸出した可能性が高い。高瀬堰付近にはウマノスズクサがあった。ここから市街地にもどり JR 可部線の「梅林駅」にて解散した。（吉野由起夫）

7月20日 東広島市豊栄町安宿 天神嶽

2008年7月20日の第469回植物観察会は東広島



観察会集合後の行程説明（東広島市豊栄町安宿，
2008年7月20日，坪田撮影）



キキョウ *Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A.DC.
（東広島市豊栄町安宿，2008年7月20日，坪田撮影）



コマツナギ *Indigofera pseudotinctoria* Matsum.
（東広島市豊栄町安宿，2008年7月20日，坪田撮影）



野呂の湿地の観察（東広島市河内町野呂，
2008年8月17日，長谷撮影）

市豊栄町安宿（あすか）の天神嶽（757.5 m）で行われた。安宿地区公民館（旧安宿小学校跡地）に 10:00 集合。参加者 44 名。担当豊原，現地案内井長。豊原によるシラカシとウラジロガシの県内での分布と植生の説明，井長による安宿の地名と山の名前，修験道との関係について解説の後，公民館を出発。前日の雨で蒸し暑い中，林道から山道に入る。途中，植生調査を行う。コシアブラやアオハダ，タムシバが多い森林。オオミズゴケの生育する湿地もあり，ホザキノミミカキグサやモウセンゴケ，ミカツキグサ，イヌノハナヒゲなどが観察できた。秋の七草が生育しそうな環境が残っており，キキョウの花も開花。アカマツ林内の明るい場所でアリノトウグサが開花。山腹で昼食の後，頂上へ向かう。オニマトタビ（キウイフルーツ）が山道沿いに植栽されていた。険しい道を登り，展望の良い頂上に到着。山頂の岩場でゲンカイツツジを何本か確認。世羅台地を一望した後，同じ山道を下る。石垣

でミミナグサが見られた。公民館に到着の後，植生調査の中で使われる被度・群度の説明。解散し，帰途につく。
（豊原源太郎）

8月17日 三原市大和町白竜湖・東広島市河内町野呂

2008年8月17日の第470回植物観察会は，三原市大和町白竜湖周辺と東広島市河内町野呂の湿原（490 m）で行われた。白竜湖スポーツ村公園ドーム駐車場に 10:00 集合，参加者 35 名。現地案内の井長が棕梨ダムの建設経過と野呂の湿原について説明，湖畔に設けられた「植物の小道」を歩く。水辺に下る観察路が藪になっていたので堤上を歩く。ヤブガラシに寄生したアメリカネナシカズラが花をつけている。浅い湿地にはカンガレイが大きな群落を作り，ミソハギの赤い花が目立つ。アカマツ・コナラ林には，クリ，コシアブラ，ウラジロノキ，カキ，イヌシデ，ヤブツバキ，ヒサカキがある。ウリカエデ，エゴノキ，タカ

ノツメに果実，リョウブ，ヌルデに花。草本ではミズタマソウが見頃，ヤワラシダ，シケシダ，イワヒメワラビが林床に，コタニワタリが溪流の石垣上に1株，ノギラン，ナガバタチツボスミレは果実，日なたには帰化植物のメリケンムグラが咲く。車道沿いの林縁にはバイカイカリソウ，コバノガマズミ，ヤマコウバシ，コツクバネ，コウヤボウキ，クマヤナギ，アテツマンサク等。ヒノキ林下にミヤコザサがある。午後は野呂に移動して，水田跡のオオミズゴケ湿原へ，キセルアザミ，サワシロギク，サワヒヨドリ，サワギキョウ，ヒメシロネ，ムカゴニンジン，アギナシ，ヤマトミクリ，コマツカサススキ，コガマ等が開花。周辺部にはウメモドキ，サクラバハハンノキがあった。（埴田 宏）

訂正。2007年10月21日の記録の中の「大林公民館」は「三入公民館」の誤りでした。

実験所活動状況－2008年度－

坪田博美・向井誠二（広島大・院・理）

2008年度の宮島自然植物実験所活動状況について列記する。

1. 人員構成

所長 教授（併任）： 鈴木克周
准教授： 坪田博美
技術専門職員： 向井誠二
臨時用務員： 向井美枝子
博士課程前期1年生： 毛利智恵
学部4年生： 木村菜南美，安富友貴

2. 研究テーマ

坪田博美： 蘚苔類の分子系統学的・植物地理学的研究，広島県の植物相の解明，コシダ・ウラジロの生態学的研究，蘚苔類のアレロパシー（多感作用）に関する基礎研究，藻類スミレモの分子系統学的研究

向井誠二： 宮島の植物季節学的研究，広島県の植物相の解明，コシダ・ウラジロの生態学的研究，ミヤジマトンボの保護に関する研究

毛利智恵： 葉緑体DNAマーカーを用いた宮島の植物の遺伝的多型の検出に関する基礎研究

木村菜南美： ヒナノシャクジョウ属およびホンゴウソウの分子系統学的位置と広島県における生育状況に関する基礎研究

安富友貴： 宮島白糸川上流域の植生回復過程における淡水藻フロラの変化

3. 実習

3月6-9日 生物科学基礎実験Ⅲ（海藻実習，学部3年生対象，潮位の関係で3月に先行して実施）

4月26-27日 教養ゼミ（植物コース，宮島植物学実習，学部1年生対象）

8月5-8日 教養ゼミ（植物コース，宮島植物学実習，学部1年生対象）

11月14-16日 宮島生態学実習（宮島での野外実習，学部3年生対象）

12月23-27日 宮島生態学実習（西表・石垣島での野外実習，学部3年生対象）

4. 学会発表

有川智己・坪田博美・出口博則・西村直樹・樋口正信．ハイゴケ科（蘚類）の分類学的研究 3. 葉緑体3遺伝子を用いた分子系統解析．日本植物分類学会第8回大会（2009年3月12-15日，仙台）．

半田信司・坪田博美・中原・坪田美保．日本産スミレモ目（Trentepohliales）の多様性と系統—大型の藻体を形成するスミレモ属（Trentepohlia）を中心に．日本藻類学会第33回大会（2009年3月26-29日，沖縄）．

木村菜南美・向井誠二・向井美枝子・長谷信二・中原・坪田美保・久保晴盛・坪田博美・鈴木克周．シロシャクジョウ *Burmanna cryptopetala* Makino の分子系統学的位置と広島県における生育状況について．日本植物分類学会第8回大会（2009年3月12-15日，仙台）．

毛利智恵・向井誠二・坪田博美．葉緑体DNAマーカーを用いた宮島の植物の遺伝的多型の検出に関する研究．日本生態学会中国四国支部第52回大会（2008年5月18-19日，東広島）．

坪田博美・向井誠二．日本産蘚類カガミゴケ属 *Brotherella* およびその周辺分類群の系統・分類学的研究．日本植物学会第72回大会（2008年9月25-27日，高知）．

坪田博美・向井誠二・黒田有寿茂・豊原源太郎．宮島の森林植生の遷移に与えるコシダ・ウラジロの影響について—シダはぎ取り実験中間報告—．日本生態学会中国四

国支部第 52 回大会 (2008 年 5 月 18-19 日, 東広島).
坪田博美・長谷信二・榊崎浩亮・向井誠二・出口博則. 西
表島の苔類ウロコゼニゴケの一種について. 日本蘚苔類
学会第 37 回大会(2008 年 8 月 29 日-9 月 1 日, 秋田).
坪田博美・長谷信二・榊崎浩亮・向井誠二・出口博則. 沖
縄県西表島で見つかった苔類ウロコゼニゴケ属の一種
について. 日本植物分類学会第 8 回大会 (2009 年 3 月
12-15 日, 仙台).
安富友貴・半田信司・中原・坪田美保・向井誠二・坪田博
美. 植生回復過程における淡水藻フロラの変化—広島
県宮島の例—. 日本藻類学会第 33 回大会 (2009 年 3
月 26-29 日, 沖縄).

5. 公表論文・短報・資料

Afonina, O. M., Tsubota, H. & Ignatova, E. A. 2007 (2008).
The genus *Pylaisiadelphina* (Pylaisiadelphaceae, Musci) in
Russia. *Arctoa* 16: 127-132.
Estébanez, B. (著), 坪田博美 (訳). 2008. 新刊
紹介: "Brugués, M., Cros, R. M. & Guerra, J. Flora
Briofítica Ibérica, Volumen I. Sphagnales, Andreaeales,
Polytrichales, Tetrarhizales, Buxbaumiales,
Diphysciales." *Hikobia* 15: 248.
半田信司・関 太郎・向井誠二・坪田博美. 2008. 宮島に
おけるイカリソウ属の一種 *Epimedium* sp. の再確認.
Hikobia 15: 225-230.
広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所 (坪田
博美・向井誠二) (編). 2009. 宮島の植物と自然, 改
訂版 (8 版). 160 pp. 広島大学大学院理学研究科附属
宮島自然植物実験所, 廿日市市.
海堀正博・関 太郎・鈴木盛久・北側隆司・奥田敏統・出
口博則・坪田博美. 2008. 保護されたエリアでの山腹
崩壊発生地における自然環境の再生に関する研究. 砂
防・地すべり技術センター (編), 平成 20 年度砂防地す
べり技術研究成果報告会講演論文集, 29-51 pp. 砂防・
地すべり技術センター, 東京.
金丸純二・坪田博美・向井誠二・岡芳香・石原直久・小
早川喜伸・加藤秀雄・長野由知・中尾佳行. 2009. 確
かな学力の育成—世界遺産宮島から学ぶ野外教育実践
—. 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要 37
(inpress).
久保晴盛・長谷信二・坪田博美. 2008. 広島県における
アオモジ (クスノキ科) の分布と生育環境および侵入生

物種としての現状と定着要因. *Hikobia* 15: 217-224.
Oguri, E., Yamaguchi, T., Shimamura, M., Tsubota, H. &
Deguchi, H. 2008. Phylogenetic and morphological
reevaluation of *Leucobryum boninense* (Leucobryaceae),
endemic to the Bonin Islands. *Bryologist* 111: 260-
270.
坪田博美. 2008. 新刊紹介: "太刀掛 優・中村慎吾 (編).
改訂増補 帰化植物便覧." *Hikobia* 15: 249-250.
坪田博美・長谷信二・向井誠二・出口博則. 2008. 宮島
のこけ 2. ウロコゼニゴケ. 宮島自然植物実験所ニュー
スレター 13: 10-12.
坪田博美・向井誠二・豊原源太郎. 2008. 植物と植生.
廿日市商工会議所 (編), 宮島本改訂版, 208-225 pp. 廿
日市商工会議所, 廿日市.

6. その他

坪田博美. 講演「宮島の自然—宮島の植物—」.
2008 年 5 月 13 日. 廿日市中央公民館, 廿日市.
坪田博美. 広島大学総合博物館宮島展記念シンポジウ
ム「宮島学のフロンティア」. 2008 年 7 月 26 日.
広島大学中央図書館, 東広島.
坪田博美. 野外観察会講師, 廿日市中央公民館主催.
2008 年 10 月 2 日. 宮島, 廿日市.
坪田博美. 2008 広島大学テレビセミナー 2. 瀬戸内
の自然と暮らし. 第 1 回 現代の自然と人々の暮らし.
2008 年 11 月放送. RCC・広島大学共同制作.

実験所活動状況— 2006 年度— (追加)

5. 公表論文・短報・資料

Kuroda, A., Mukai, S. & Toyohara, G. 2006. Floristic
composition and community structure of dense
undergrowth vegetation formed by evergreen perennial
ferns, *Dicranopteris linearis* and *Gleichenia japonica*
(Gleicheniaceae). *Vegetation Science* 23: 25-36.

実験所活動状況— 2007 年度— (追加)

4. 学会発表

有川智己・坪田博美・出口博則・西村直樹・樋口正信.
ハイゴケ科 (蘚類) の分類学的研究 2. 複数遺伝子
を用いた分子系統解析. 日本植物分類学会第 7 回大会
(2008 年 3 月 20-23 日, 東京).

実験所利用状況－2008年－

向井誠二・坪田博美（広島大・院・理）

2008年の宮島自然植物実験所利用状況について報告する。2008年1月から同年12月にかけて宮島自然植物実験所を研究や教育の場として利用した人、また見学を訪れた人は、計1655人であった（ただし、実験所所属の職員および学生を除く。以下同様）。その内訳は、広島大学職員および学生259人、他大学職員および学生57人、小・中・高等学校職員および児童・生徒97人、一般見学者1165人であった。これらのうち、主要な来園者を下記に記す。

- 1月16日 六甲の自然を守る会 野外観察会
- 2月24日 宮島エコツアーリズム協議会 野外観察会
- 3月19日 鈴峯女子短期大学 榊井秀雄先生他
- 4月2日 ボーイスカウト見学
- 4月4-6日 米国 Dr. Michael Homoya 他視察
- 4月28日 山陽学園 砲台及び園内見学
- 5月3-5日 広島県立忠海高等学校 科学研究部
- 5月7日 宮島学園
- 5月9日 弥山クラブ 自然観察会
- 5月16日 岡山理科大学 波田学長他
- 5月18日 Wants メディカルウォーキング大会
- 6月24日 六甲の自然を守る会 野外観察会
- 7月30日 宮島の植物野外自然観察会 鈴が峰女子短期大学 榊井秀雄先生他
- 8月4日 広島市立東原中学校 生物科学部 野外実習
- 8月21日 宮島太郎の会 宮島自然歩道散策クラブ
- 8月26-29日 山口大学農学部 細井先生他 宮島シカ生態調査
- 9月16日 RCC 中国放送 撮影
- 9月20日 安芸の宮島 & ひろしまツーデーウォーク
- 9月27日 自然観察会 厳島神社・弥山原始林山麓を歩く（森林文化協会・朝日新聞主催）
- 10月2日 廿日市中央公民館 野外観察会
- 10月6日 二杖会 野外観察会
- 11月2日 帝塚山中学校映像部、奈良新聞社 取材
- 11月4日 広島大学附属三原小学校野外実習
- 11月8-9日 広島城北学園ワンゲル部
- 11月20日 美隅公民館 自然観察会

気象観測データ

向井誠二・向井美枝子（広島大・院・理）

最近3年間の気象データを以下に示す。

	2006年	2007年	2008年
年平均気温	15.2(14.1)	15.6(14.5)	15.1(14.2)
月別平均気温			
1月	4.6(2.9)	5.1(3.2)	4.5(3.4)
2月	5.3(3.7)	6.8(5.3)	3.6(2.0)
3月	7.1(6.1)	8.3(7.1)	8.0(7.2)
4月	11.8(11.2)	12.5(11.7)	13.1(12.7)
5月	18.0(17.4)	17.6(16.8)	17.5(17.1)
6月	21.8(20.7)	22.0(21.6)	21.0(20.4)
7月	25.6(24.9)	24.5(23.6)	27.0(26.1)
8月	27.7(26.8)	27.4(26.4)	26.6(25.8)
9月	22.2(20.9)	25.7(24.4)	23.7(22.7)
10月	18.8(17.6)	18.6(17.6)	17.8(17.1)
11月	12.8(11.5)	11.7(10.5)	11.2(10.7)
12月	7.2(5.7)	7.4(6.0)	6.9(5.0)
年最低気温	-4.4	-2.7	-3.8
年最高気温	34.0	33.9	34.2
年間降水量	2210.2	1185.9	1398.5

注. 各月の平均気温は日最低気温と日最高気温の平均値の月平均値（括弧内は、午前9時の気温の月平均値）を近似値として用いた。年平均気温も同様。

編集後記: 暖冬のためか、宮島では例年より早くサクラが咲き始めました。この号発行されるころには満開でしょうか。在庫がなくなっていた「宮島の植物と自然」が改訂されて再出版されました。今回は、宮島観光協会の協力で実費だけの有償で配布されています。お問い合わせは、宮島港フェリーターミナル内にある宮島観光協会（0829-44-2011）まで。（向井・坪田）

宮島自然植物実験所ニュースレター

編集・発行 広島大学大学院理学研究科附属

宮島自然植物実験所

廿日市市宮島町三ツ丸子山 1156-2 外

印刷 喜勝印刷株式会社

広島市安佐南区伴南 2-5-5